

挙げた諸条件をそれぞれ種類分けをして示す。

3. 平面構成型の展開：平面構成型の分類についても2, 3の提案がある。(2) 本小論ではこれを11に分類し、間取りのプリンシプルとの対応関係を検討した。

4. 住宅デザインの住生活学的検討：以上によって住宅のデザイン系は一応完成するが、住宅と住生活との対応より住様式・住意見・住要求などが出てくる。これらは居住経歴を更新し住居観を再形成していく。すなわちこの現象を京大西山氏は住要求の弁証法的発展と称した。(3) 著者等はこれを住生活・住宅の動的扱いと称し今後の課題としてこれらの発展法則を明らかにしてゆきたい。

注(1) 住生活・住宅の型展開(その4) 1966.10 本総会

(2) 西山卯三「住居観について」「住宅」Vol 6 No. 7 1957

(3) 例えば小林清編「住居学」, 創元社 S. 35

## C-8 間取りのプリンシプルと住宅設計 —住生活・住宅の型展開(その5)—

大阪市大家政 ○前原 匡子  
北浦のぼる  
上林 博雄

1. 住宅デザイン系の構造：前論文(1)では住宅デザイン系において、家族生活型より間取りのプリンシプルの型展開を示した。間取りのプリンシプルは住宅のデザインを直接支配すると共に平面構成に関与する。一方住宅をめぐる社会的・物質的条件は直接住宅を支配すると共に平面構成を規制する因子も有している。このようにして具象化された平面構成は具体的に住宅のデザインに連なる。

2. 住宅設計における社会的、物質的条件：ここでいう社会的条件は経済、法規、所有、規模などであり、物質的条件は構造、設備、材料、形態である。様式、環境などは社会的、物質的条件の両面を有している。以上列